

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 141

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		ふれあい入浴	1,257	回	39,595
		まちの湯健康事業	298	回	7,450
		その他(需用費 など)			76

(2)事業実績
(協働、行革の取組があれば記入)

ふれあい入浴は、休業中を除く全浴場で実施しており、利用者数は25年度延べ78196人です。年度途中での浴場の廃業もあり、減少しました。

まちの湯健康事業は、18の浴場で実施しており、各浴場毎月1～2回実施しています。利用者数は25年度延べ5,256人ですが、その多くが何回も利用されています。浴場ごとに実施日が違うため、複数参加している利用者もいます。

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	区内の公衆浴場数は昭和49年度 111か所 → 平成23年度 30か所 → 平成24年度 28か所 → 平成25年度 27か所 → 平成26年度 24か所 と減少しています。
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	ふれあい入浴・・・「自宅にお風呂があっても、広いお風呂は気持ちいいので利用している。」「通院日と重なり指定時間に行くことができない。」「一人暮らしの高齢者同士、銭湯に来て健康の確認をし合ったり、世間話をするのが楽しみとなっている。」「中にはマナーの悪い人がいる。」といった声が寄せられています。 まちの湯健康事業・・・「とても良いので回数を増やしてほしい。」「利用者が増え、体操に必要なスペースを脱衣所では確保しにくい。」といった声が寄せられています。
	今後の予測	区内の公衆浴場数は年々減少しています。 高齢者は自宅に風呂がある場合でも、公衆浴場を好む傾向があります。また地域の浴場は高齢者の方々が気軽に足を運ぶことができる憩いの場所であり、今後も需要が高まることが予想されます。 まちの湯健康事業は、高齢者でも参加しやすいプログラムのため需要が高まっています。しかし最近では、参加者が増え適正な人数を超えてしまうため、予約制を取り入れる浴場が増加しています。
評価と課題		ふれあい入浴やまちの湯健康事業をきっかけに、高齢者の方が外出をするようになり、地域のつながりが形成されています。 まちの湯健康事業では、健康増進や介護予防としての役割を果たしています。継続的に参加することで、地域のつながりが形成されています。長寿応援ポイントの対象事業であることも、参加意欲の一つとなっています。 多くの人に利用していただけるよう、浴場側の協力が不可欠です。

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	○ 拡 充 ● 現状維持 ○ 縮 小 ○ その他			
		II 事業の方向性	● 手段・方法の見直し	○ 実施主体の見直し	○ 対象の見直し	
	浴場数が減少する一方で、利用者数の増加が見込まれるため、1か所あたりの利用者数が増え、安全な事業運営が困難になることが予想されます。安全かつ円滑に事業運営ができるよう、浴場組合と意見交換をしながら、開催日や開催回数、事業内容の見直しを図ります。					

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 142

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		風呂っと杉並 事業運営費助成	9	所	2,831
		その他()			0

(2)事業実績
(協働、行革の取組があれば記入)

25年度は9浴場が風呂っと杉並事業を実施しました。各浴場では毎月1~8回、高齢者団体が活動しています。内容は、落語や健康体操、うたの会など様々です。

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	区内の公衆浴場数 昭和49年度 111所 → 平成23年度 30所 → 平成24年度28所 → 平成25年度27所 風呂っと実施浴場 平成13年度 9所 → 平成23年度 12所 → 平成24年度 9所 → 平成25年度 9所 平成25年度は、各浴場が企画運営する活動が増加したため、実施回数が増加しています。
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	「近所なので集まりやすく、気軽に利用できるのがいい。」といった評価を頂いています。
	今後の予測	実施浴場数が減少していく傾向にあります。 一部の浴場では、実施回数が増加しています。
評価と課題	高齢者の交流を推進するために、浴場を営業時間外に開放していますが、平成23年度に行った事業のPR活動にも関わらず、高齢者のグループ登録は増えていません。グループの登録数が増えない原因を分析する必要があります。また、事業を実施する上では浴場の負担もあり、適正な事業規模等を検討する必要があります。	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡 充	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮 小	<input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	
風呂っと杉並事業は高齢者の活動拠点を確保するための有効な手段の一つです。PR方法や事業のあり方について、浴場組合と協議していきます。						

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 143

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		いきいきクラブ助成金(いきいきクラブ連合会・各いきいきクラブ)	74	団体	24,454
		福祉大会・都市交流等事業	1	団体	500
		その他(需用費、役務費)			10

(2)事業実績
(協働、行革の取組があれば記入)

いきいきクラブ(73クラブ)が、社会奉仕活動や友愛活動(11,448回)、健康増進活動(7,317回)、生きがい活動(9,093回)を実施しました。
いきいきクラブ連合会及び地区連合会(10地区)で、福祉大会7回(連合会1回、6地区6回)、スポーツ大会6回(1連合会6回)、健康づくり教室9回(1連合会1回・8地区8回)、東吾妻町とのグラウンドゴルフ大会による交流懇談会等を実施しました。

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	昭和33年→3クラブで開始。平成5年に会員数のピーク(12,071人)、平成10年にクラブ数のピーク(100クラブ)となりました。 平成21年→81クラブ、会員数6,778人(60歳以上人口134,259人、クラブ加入率5.0%)※国及び都の要綱改正に伴い、1クラブあたりの会員数を「50人以上」から「30人以上」に改正 平成25年→73クラブ、会員数5,811人(同141,755人、同4.1%) 高齢者人口は年々増加していますが、クラブ数及び会員数、60歳以上人口に占める加入率は年々減少しています。
	事業に対する意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	会員から、「高齢者の生きがい活動の場として、いきいきクラブで楽しく活動しています。」「引きこもりの防止となるよう活動を工夫しています。」「会員の高齢化と、若い世代の高齢者が入会しないなどの事情で、クラブ役員を担う後継者がいません。」「という感想や意見があります。 一般の方から、「自分の趣味に合うサークル活動をさがしている。」「近所で活動しているサークルの情報を知りたい」などの問い合わせを受け、いきいきクラブを紹介しています。
	今後の予測	平成25年度当初は73クラブになりましたが、年度末には3クラブの廃止がありました。平成26年4月現在、70クラブとなり、会員の平均年齢は79.7才です。若い世代の高齢者の加入は少なく、会員数は今後も減少すると思われます。しかし、一部のクラブでは活動内容や会員への呼びかけなどに工夫を行い、会員数を伸ばしています。杉並区いきいきクラブ連合会の活性化委員会では、平成26年度から毎年、各クラブ会員数の3%増加を目標にして、様々な取り組みを行う予定です。
評価と課題	ゆうゆう館利用の状況や長寿応援ポイント事業の活動登録の実績から、いきいきクラブの活動は高齢者の社会参加に一定の成果をあげています。しかし老人クラブ加入者の減少は全国的な傾向で、多様なライフスタイルや価値観が生まれている現代では、高齢者にとって老人クラブ以外の多種多様な選択肢が広がっています。そのため、ボランティアや友愛活動なども含めた地域に発信できるクラブの魅力をつくりだし、若手高齢者の関心、興味のある活動を展開し、PRしていくことが課題です。	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡 充	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮 小	<input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	
加入者の減少傾向がある中、いきいきクラブは依然として高齢者へ活動の場を提供し、情報発信する役割を担っています。区は、いきいきクラブの活性化に向けて、クラブ数・会員数が増加するよう広報活動の支援をしていきます。また、クラブ活動で、健康増進活動や生きがい活動のほか、地域の中で、互いに支え合う友愛活動なども一層浸透していくよう助言や支援をしていきます。						

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 144

25年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		シルバー人材センター運営助成			
		その他(シルバー人材センター運用資金貸付金)			4,999
	(2) 事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	事業実績は実契約件数8,659件、事業収入939,278,136円です。実契約件数の内訳は、ゆうゆう館の協働事業運営等の公共的な事業106件、民間事業所の事業836件、一般家庭の事業7,664件等です。地域貢献活動である「シルバー孫の手」では、209件のボランティア活動を実施しました。高齢者への周知のため、民生委員の協力を得て「安心おたっしや訪問」で、チラシ配布を通じた利用拡大に努めました。シルバー人材センターの事業周知支援として、広報すぎなみに事業案内記事を計53回掲載しました。			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	総人口(区)に占める60歳以上の区民の割合:昭和54年 8.57% ⇒平成26年4月 26.18% シルバー人材センター会員数:昭和54年度 1,280人⇒平成25年度末 3,017人 25年1月より「シルバー孫の手」事業を開始しました。これは、健康で元気なシルバー会員が地域の高齢者を支えるボランティア活動です。25年度末で、ボランティア登録数449人、209件実施しました。重度知的障害者通所施設の拡張のため、シルバー人材センター方南分室の施設を中規模通所施設として整備することになり、26年4月から高井戸地域区民センター内に高井戸分室として事務所の移転をしました。
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	施設利用者を対象に昨年に続き、公共施設アンケート調査を行い、概ね良い評価を得ました。頂いた意見は、今後の就業に活かすよう努めています。
	今後の予測	高齢者人口の増加や団塊の世代の加入により会員数が増加することが考えられますが、平成24年の高齢者等の雇用の安定等に関する法律の改正により、65歳までの雇用環境が確保され、シルバー人材センターの会員も高齢化傾向が続いています。経済や雇用状況は改善しつつありますが、受注の契約金額(事業収入)が好転するまでには時間がかかると思われます。また、会員数に応じた就業機会の確保、就労内容に応じた会員の能力育成が課題となっています。「シルバー孫の手」事業を通して、互いに支えあう地域づくりにシルバー人材センターの果たす役割は、ますます大きなものとなり、その活動への期待も高まっています。
評価と課題	経済や雇用状況は改善の兆しはありますが、厳しい状況は変わらず、近年減少傾向が続いていた契約金額(事業収入)が増加したことは評価できます。 住宅都市・杉並の特性である一般家庭からの多くの受注に対応するため、就業上の情報交換や会員間のコミュニケーションを図り、会員の職種転換を促す取組が課題です。 「シルバー孫の手」事業の周知・普及に努め、公益社団法人として高齢者が支えあう地域づくりに貢献していくことも課題です。	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	○ 拡 充 ● 現状維持 ○ 縮 小 ○ その他
	II 事業の方向性	● 手段・方法の見直し	○ 実施主体の見直し ○ 対象の見直し
	就業活動と地域貢献活動を通して、高齢になっても社会参加しやすい場づくり・つながりづくりに貢献するよう、区は支援を継続します。 地域貢献活動としての「シルバー孫の手」事業について、利用拡充のため今後も町会、民生委員、地域包括支援センター等に周知に努めます。		

平成26年度 杉並区事務事業評価表(1)

事務事業名		高齢者いきがい活動支援		款	4	項	1	目	2	事業	14	整理番号	145	
担当部課名		保健福祉部高齢者施策課		係名	いきがい活動支援係		連絡先電話番号	1164		昨年度整理番号	145			
上位施策No・施策名		15 高齢者のいきがい活動の支援		予算事業区分				既定事業						
事務事業の概要	事業開始		昭和	▼	58	年度	<input type="checkbox"/> 実行計画事業目標		施策	<input type="checkbox"/> 計画事業		<input type="checkbox"/> 主要事業(経営計画書掲載事業)		
	対象		概ね50歳以上の区民		内部管理		施設維持管理		根拠法令等	(1) 老人福祉法第4条 (2) 杉並区立高齢者活動支援センター及びゆうゆう館条例				
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)		○高齢者が生きがいを高める活動・学習・就業の場を利用して、地域の中で生涯現役で健康に暮らしていけるようにする。		活動指標名(式)		(1) 支援対象の地域活動団体数 (2) 高齢者の就職成立件数							
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)		○地域のNPO法人・団体等が行う高齢者のいきがい、健康づくり、パソコン教室等の講座の開催を支援する。 ○地域で役に立ちたいと思っている高齢者を社会貢献スタッフとして登録し、地域の求めに応じて講師として派遣する。さらに、社会貢献スタッフの活動に役立つ技術・技能を習得するための研修会を実施する。 ○杉の樹大学をNPO法人に委託し開催する。 ○高齢者の就業・社会参加支援をNPO法人に委託し実施する。		成果指標		※(代)=適当な指標がない場合の代替指標							
				成果指標名(1)		杉並区後援の地域貢献事業の開催回数								
				算定式・指標の説明等										
				成果指標名(2)		社会貢献スタッフ年間延べ派遣人数								
				算定式・指標の説明等										
区分		単位	23年度	24年度		25年度		26年度	計画(目標値)に対する25年度の達成率(%)					
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画						
指標	活動指標(1)	1	団体	5	14	12	14	9	12	64.3				
	活動指標(2)	2	回	19	20	20	21	23	25	109.5				
	成果指標(1)	3	回	87	200	164	150	149	150	99.3				
	成果指標(2)	4	人	544	550	1,273	1,200	1,261	1,200	105.1				
総事業費・コスト把握	事業費	5	千円	6,282	6,753	6,451	6,605	6,381	6,570	25年度予算執行率(%)	96.6			
	(内)投資的経費等	6	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項				
	(内)委託費	7	千円	6,232	6,377	6,340	6,359	6,344	6,354					
	職員数	常勤職員数	8	人	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	活動指標(2)の変更。25年度までは高齢者の就業・社会参加支援の就労相談人数を指標に使っていましたが、26年度からは就職成立件数に指標を変更します。26年度計画数値は、23～25年度増加率を平均して乗じた数値に設定しました。 成果指数(1)26年計画数値は前年度後半の実績を勘案して設定しました。			
		再任用職員数	9	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00				
		非常勤職員数	10	人		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00				
	人件費	(内)常勤職員分	11	千円	8,010	7,830	7,830	7,767	7,767	7,767				
		(内)再任用職員分	12	千円	0	0	0	0	0	0				
		(内)非常勤職員分	13	千円		0	0	0	0	0				
	総事業費(5+11+12+13)	14	千円	14,292	14,583	14,281	14,372	14,148	14,337					
	単位あたりコスト((14-6)÷1)	15	円	2,858,400	1,041,643	1,190,083	1,026,571	1,572,000	1,194,750					
	財源	受益者負担分	16	千円	0	0	0	0	0	0				
		国からの補助金等	17	千円	0	0	0	0	0	0				
都からの補助金等		18	千円	3,284	3,376	3,276	3,172	3,172	3,082					
その他の補助金等		19	千円	0	0	0	0	0	0					
特定財源計(16+17+18+19)		20	千円	3,284	3,376	3,276	3,172	3,172	3,082					
差引:一般財源(14-20)	21	千円	11,008	11,207	11,005	11,200	10,976	11,255						
受益者負担比率(16÷14)	22	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 145

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		杉の樹大学	1	所	3,600
		高齢者の就業・社会参加支援	1	所	2,744
		その他(報償費、需用費、役務費)			37
(2)事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	杉の樹大学は、本科33講座(受講生60名)、専科5講座(受講生86名)、健康講座1回5講座(延べ123人)、公開講座2回2講座(延べ178人)、ITサロン2回16講座(延べ89人)を実施しました。社会貢献スタッフの講師活動は(主に、てぬぐい体操、健康エアロビクス)は、ゆうゆう館の自主グループ・協働事業、まちの湯健康事業等で継続して利用者に好評で需要も高いです。				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	区の高齢化率の推移(65歳以上の総人口に占める割合) 昭和50年7.42%、平成元年11.44%、平成20年18.68%、平成24年19.75%、平成25年20.7% 杉の樹大学は、平成24年度に受託事業者を公募型プロポーザル方式で募集し、平成25年度から3年度間、NPO法人杉の樹カレッジが事業者として選定され、事業を継続しています。		
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	杉の樹大学は、「新しい仲間と出会えた、充実した一年を過ごすことができた、学びから知り得た知識を地域のボランティア活動に活かしていきたい」など、受講生の評価は好評で、「もう1年通いたい」という要望もあります。 高齢者の就業・社会参加支援では、65歳を迎えた団塊の世代に対して「65歳」あなたの働き方を変えてみる」講座を開催しました。東京しごとセンターから講師を招き、基調講演「シニア世代の働き方への提案」、高齢者の雇用に積極的な企業、杉並区シルバー人材センター、すぎなみNPO支援センター、キャリアカウンセラー、NPOで従事している方をパネリストに迎え、さまざまな働き方を紹介しました。ワールドカフェ方式での対話を通し参加者同士が交流して、参加者から「新たなスタートのきっかけになった」等好評を得ました。		
	今後の予測	○高齢者人口は年々増加しています。高齢者一人ひとりが安心できる地域とのつながりの持てる事業を開催したり、地域に出ていききっかけを提供し、生きがいを見つけ、高めていくことに繋がるよう支援していきます。 ○高齢者が仕事をする理由は、いきがいと健康維持であり、高齢者人口の増加に伴い需要は大きいと考えられます。		
評価と課題	杉の樹大学は、健康で生きがいのある生活を営むとともに、地域の活動に主体的に取り組むための自己啓発を目指した生涯学習・社会参加を支援する事業を実施しています。杉の樹大学と卒業生から形成された高齢者団体等との連携が希薄である現状があり、協力関係が保たれれば、さらに活発に地域活動も継続されると考えられるため、運営団体への働きかけが必要です。 高齢者の就業・社会参加支援では、求人開拓を強化した結果、清掃会社2社から定期的に求人情報の提供を受けることができるようになりました。			

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	○ 拡 充 ● 現状維持 ○ 縮 小 ○ その他			
		II 事業の方向性	● 手段・方法の見直し	○ 実施主体の見直し	○ 対象の見直し	
	○杉の樹大学事業の課題や今後の方向性を見直し、平成27年度実施予定の公募型プロポーザルによる事業者選定の要件を、対象者・地域のニーズに合うよう検討していきます。					

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 161

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		高齢者ゲートボール場清掃等委託	1	年	200
		杉並区立高齢者活動支援センター運営協議会委員謝礼	2	回	132
		その他(光熱水費 ほか)			23

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	全国的にゲートボール人口は減少傾向にあり、高齢者ゲートボール場登録団体数は平成12年度の29団体をピークに減少し、平成18年度には17団体となりました。その後、増加に転じ、平成24年度は21団体が登録していましたが、平成25年度は18団体へと減少しました。 高齢者活動支援センターは昭和58年の開設ですが、隣接する杉並清掃工場の建替工事に伴い、大規模改修工事を実施し、改修後の平成24年5月からは、運営をより効果的、効率的に行い、利用者にとってより一層利用しやすい施設とするため、指定管理者制度を導入しました。
	事業に対する意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	高齢者活動支援センターの鍵の貸し出し方法や部屋の空調について、苦情が寄せられました。また、浴室の利用方法に対する意見が寄せられました。 高齢者ゲートボール場利用団体からグラウンドの整備について、要望が寄せられました。
	今後の予測	高齢者人口が増加することに合わせて、スポーツなどを通じた社会参加の機会の拡充を希望する高齢者が増加するとともに、高齢化が進むため高齢者ゲートボール場のグラウンド整備などを区が積極的に行うようになる必要が出てくるのが予想されます。 幅広い年齢層が利用・交流できる、にぎわいと活気ある施設、地域の拠点としての高齢者活動支援センターの役割が求められることが予想されます。
評価と課題	改修後の運営を指定管理者制へ移行すると同時に受付業務を総合受付に変更しました。指定管理者によって施設の円滑な運営にあたるため、地域懇談会を行い、高齢者のみならず幅広い世代が利用しやすいよう運営を行っています。これによって高齢者活動支援センター運営協議会は平成25年度をもって廃止しました。 多目的室の稼働率は80%近くと非常に高い水準ですが、講座室の平均は50%弱と低い状態のため利用率の向上にむけた課題があります。	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡 充	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮 小	<input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input checked="" type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	
	高齢者活動支援センターについては、指定管理者による運営に移行しました。ハード面の整備は平成24年度に終わり、今後は部屋の運用方法や浴室利用のルールなど、ソフト面での改善を行うよう指定管理者と協議を行っていきます。 高齢者ゲートボール場については、利用団体での自主的な管理の必要性がある事を認識しつつ、区も手を携えて進めていく必要があります。					

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 162

25年度の事業実施状況	(1) 主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		ゆうゆう館受付等業務委託(うち協働事業館32館)	32	館	240,999
		協働事業館支援事業(備品・消耗品購入)	32	館	398
		ゆうゆう館評価・選定委員会開催	2	回	125
		その他()			0
(2) 事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	32館で年間9,311回の協働事業が行われ、延10万人を超える参加者がありました。ゆうゆう館を利用した人数も延459,227人にも達し、年々利用者数が伸びてきています。運営団体の実施状況については、平成20年度及び平成23年度にゆうゆう館協働事業を開始した6団体を対象に評価委員会を2回開催しました。				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	受付等業務委託は、平成18年度の時点では16館(うち協働事業館9館)で行っていました。平成23年度から区内32箇所あるゆうゆう館の全てが受付等業務委託館及び協働事業実施館となりました。
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	館の管理運営については概ね順調に行われており、受託団体の接客姿勢についても満足との意見もいただいています。また、利用者のニーズにあった協働事業を幅広く実施することに伴い、利用者数は順調に増加しています。ただし、従来からゆうゆう館を利用していた高齢者団体等からは、希望する日時での自主活動ができなくなったなどの苦情も寄せられています。
	今後の予測	区立施設再編整備計画では、ゆうゆう館は多世代が利用できる地域コミュニティ施設への転用・再編整備を進めていくこととなっています。身近な地域で高齢者が気軽に集まることができるゆうゆう館の機能と役割は継承することとなっているため、これまでと同様に地域の高齢者のニーズを把握し事業を企画することや各ゆうゆう館の特性を活かした事業の企画などを進めていくことが求められます。そのため、ゆうゆう館が継続的に安定して運営できるよう、運営団体の評価を通して、必要な支援や指導を行うことが区に求められます。
評価と課題	現在、ゆうゆう館全館において協働事業を行っており、このことが果たす役割の大きさを認識しつつ、地域に根差した施設として高齢者の満足度がさらに上がるよう運営を行う必要があります。また、区立施設再編整備計画では、平成31年度から地域コミュニティ施設への転用・再編整備を進めていく計画となっていますが、すでに移転の予定があるゆうゆう館でのモデル的な取り組みをどのように行うか十分な検討が必要です。	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡 充 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 縮 小 <input type="radio"/> その他			
		II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し <input type="radio"/> 実施主体の見直し <input type="radio"/> 対象の見直し			
	区立施設再編整備計画では、地域コミュニティ施設として、ゆうゆう館の機能と役割は継承することとなっています。多世代が利用できる施設となることによるメリット、デメリットを理解し、高齢者の活動の場をどのように確保するか必要な施設はどのようなものか十分な検討を重ねて、より良い施設運営ができるように整備が必要となっています。					

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 163

25年度の事業実施状況	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		三療サービス(ゆうゆう館)事業委託	5,036	人
(1)主な取組				
	その他(役務費、需用費)			1,893
(2)事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	三療サービスはゆうゆう館全32館を利用し、月40回、年間480回実施しています。例年女性の利用者が多く、25年度の実績5,036人中、女性が3,360人(66.7%)です。はりマッサージのどちらかの選択制ですが、利用者の多くがマッサージ(4,494人:89.2%)を希望しています。			

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	ゆうゆう館 平成22年度5,201人 23年度5,067人 24年度4,931人 25年度5,036人 ゆるやかな減少傾向にあります。 高齢者活動支援センター 平成22年2,550人 平成23年2,349人 平成24年179人(4月のみ) ※高齢者活動支援センターは24年5月以降は指定管理者制度に移行しました。
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	現在、ゆうゆう館では原則として施術は1月あたり1回しか受けられないので、利用できる回数を増やしてほしいとの要望があります。
	今後の予測	ゆうゆう館の三療サービス利用者は近年、減少傾向にあります。館による差も大きく、施術者の技術や地域性によると見られます。利用者が固定化しているため、高齢化に伴い利用者数は減少すると思われる。
評価と課題	利用者には大変好評な施術ですが、利用者が固定化していること、館によっては予約が埋まらないゆうゆう館があります。より多くの方に幅広く利用していただくために、広報やゆうゆう館での周知活動を行う必要があります。また、利用者に対し、介護予防事業の普及啓発を効果的にすすめる必要があります。施術者の技術向上を支援する必要があります。	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡 充	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮 小	<input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	
	より多くの方に利用していただくため、館ごとに三療サービス事業のPRを行っていきます。また、利用者に対して、介護予防事業の普及啓発を実施し、高齢者の健康増進を目指します。 施術者の技術向上のため、協議会が実施する技術・接客向上のための研修会を支援していきます。					

平成26年度 杉並区事務事業評価表(1)

事務事業名		敬老事業		款	4	項	1	目	2	事業	35	整理番号	164
担当部課名		保健福祉部高齢者施策課		係名	いきがい活動支援係		連絡先電話番号	1164		昨年度整理番号	165		
上位施策No・施策名		15 高齢者のいきがい活動の支援		予算事業区分				既定事業					
事業開始		昭和	▼	25	年度	<input type="checkbox"/> 実行計画事業目標		施策	<input type="checkbox"/> 計画事業		<input type="checkbox"/> 主要事業(経営計画書掲載事業)		
事務事業の概要	対象	○75歳以上の高齢者 ○75歳、81歳、100歳以上の高齢者		内部管理		根拠法令等		(1) 老人福祉法第4条、5条、第13条第1項 (2)					
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)		○対象者が、後期高齢期を健やかに過ごし、これからの活動への意欲が高められるようにする。		活動指標名(式)		(1) 敬老会参加者数 (2) 祝い品贈呈者数(75歳、81歳、100歳以上)						
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)		○高齢者の長寿を祝うため、式典及び演芸会を開催する。 ○対象者に敬老祝い品を贈呈(戸別配送)する。在宅で生活している100歳以上の男女1名ずつには区長が訪問し、直接贈呈を行う。		成果指標		※(代)=適当な指標がない場合の代替指標						
					成果指標名(1)		敬老会来場率				算定式・指標の説明等		来場者÷対象者数
				成果指標名(2)		祝い品交換率				算定式・指標の説明等		交換者÷対象者数	
区分		単位	23年度	24年度		25年度		26年度	計画(目標値)に対する25年度の達成率(%)				
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画					
指標	活動指標(1)	1	人	5,003	5,000	4,343	5,000	4,192	5,000	83.8			
	活動指標(2)	2	人	8,620	8,800	8,418	8,500	8,302	8,800	97.7			
	成果指標(1)	3	%	8.2	10.0	7.3	8.6	7.3	9.0	84.5			
	成果指標(2)	4	%	99.3	100	98.7	100	98.6	100	98.6			
総事業費・コスト把握	事業費	5	千円	33,953	38,789	33,816	37,391	31,759	38,280	25年度予算執行率(%)	84.9		
	(内)投資的経費等	6	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項 執行残の理由:敬老祝い品の購入予算額と確定額の差額による残			
	(内)委託費	7	千円	10,652	11,295	11,227	9,695	9,264	10,363				
	職員数	常勤職員数	8	人	2.00	1.90	1.90	1.90	2.00				1.90
		再任用職員数	9	人	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00				0.00
		非常勤職員数	10	人		0.00	0.00	0.00	0.00				0.00
	人件費	(内)常勤職員分	11	千円	17,800	16,530	16,530	16,397	17,260				16,397
		(内)再任用職員分	12	千円	616	0	0	0	0				0
		(内)非常勤職員分	13	千円		0	0	0	0				0
	総事業費(5+11+12+13)	14	千円	52,369	55,319	50,346	53,788	49,019	54,677				
	単位あたりコスト((14-6)÷1)	15	円	10,468	11,064	11,592	10,758	11,693	10,935				
	財源	受益者負担分	16	千円	0	0	0	0	0				0
		国からの補助金等	17	千円	0	0	0	0	0				0
		都からの補助金等	18	千円	6,931	7,228	7,229	6,452	6,452				6,830
その他の補助金等		19	千円	0	0	0	0	0	0				
特定財源計(16+17+18+19)		20	千円	6,931	7,228	7,229	6,452	6,452	6,830				
差引:一般財源(14-20)		21	千円	45,438	48,091	43,117	47,336	42,567	47,847				
受益者負担比率(16÷14)	22	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 164

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		敬老会開催	4,192	人	12,280
		敬老祝い品贈呈	8,302	人	19,479
		その他()			0

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	事業(敬老会)を開始した当時は娯楽の少ない時代でしたが、現在は日常的に趣味や娯楽を楽しめる時代です。75歳以上の高齢者人口(区総人口に対する比率)は、昭和27年2,993人(0.8%)から平成26年の57,639人(10.4%)へ推移しています。
	事業に対する意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	敬老会の開催内容については、第二部のプログラムを、25年度は、落語とコントにしました。以前より、落語の希望は多く、一昨年の中落語の事後の評判が良かったため、25年度は6回とも落語とコントにしました。感想は、おおむね良いものですが、「二年連続は飽きた」「お笑いはいよいよから、音楽を」といったものも多くありました。敬老祝い品のカタログギフトは個人の嗜好に合わせて商品を選択できるので、対象者になるのを楽しみにしているという声が多数あります。少数ですが、祝い品は必要ないという意見や区内共通商品券、現金を希望する声もあります。
	今後の予測	高齢化に伴い、毎年、対象者は増加していきます。現在の敬老事業の内容では対応しきれなくなる可能性があり、内容の見直しが必要となってきます。

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡 充	<input checked="" type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮 小	<input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	
	敬老事業は区民の関心が高く、毎年楽しみにされている方が多くいますが、対象者の増加により様々な要望があり、従前通りの事業形態の継続が難しくなりつつあります。他自治体も同じ理由で事業の見直しを行っており、杉並区も対象者人数の増加傾向や区民の意向を把握し、今後の事業に反映していく必要があります。					

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 165

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		長寿応援ポイント運営委員会(運営懇談会)	18	回	528
		普及啓発(チラシ、ポイントシール印刷等)	573,000	部	2,460
		事務運営			75,450
		その他()			0

(2)事業実績(協働、行革の取組があれば記入)

平成25年度末の登録活動件数は1,267件で、平成24年度末の1,210件から増加しています。登録延べ人数も28,507名となっています。
 参加者拡充を図るため、事業紹介パンフレットを作成して区内各ゆうゆう館や区民センターなどに置き、事業のわかりやすい周知に努めました。
 長寿応援ファンドを活用し、地域の高齢者や次世代を支える7活動(平成24年度は10活動)に助成を行いました。

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	事業開始年度である平成21年10月の区内65歳以上人口は103,024人でしたが、平成25年4月現在では112,863人まで増加しています。 そのうち介護保険認定者は23,240人となりました。平成26年3月の杉並区高齢者実態調査報告書によれば、65歳以上でボランティア活動を行っている高齢者は7.0%、趣味のサークルやクラブ活動を行っている高齢者は調査回答者の半数近く42.7%となっていて、両数値とも平成23年3月の報告に比べ増加しています。生活に生きがいを感じている高齢者は74.3%です。
	事業に対する意見(事業に対する期待・要望・苦情など)	ポイントが配られることで「参加意欲が向上する」「新しい方も参加するようになった」「友人が増えた」など、大変好評です。ポイント交換で得た商品券は日々の買い物や健康・娯楽など様々な目的で活用されています。また、寄付をしていただいた方からは「社会の役に立てることがうれしい」との声があります。一方、対象年齢を下げしてほしいとの要望があります。 長寿応援ファンド助成を受けた活動団体からは、助成を受けたことにより「団体の知名度が上がり活動の場が大きく広がった」「安定した活動で多くの協力者を得ることができた」等の実施結果が報告されました。
	今後の予測	高齢者人口は今後しばらく増加を続けると想定されます。このため、より多くの高齢者の健康増進や社会参加のきっかけとなるように事業を展開します。
評価と課題	長寿応援ポイント事業は、高齢者の健康増進・生きがいづくりを応援することを目的として実施しており、様々な活動が登録されています。 地域包括ケアシステムの一つという視点を踏まえて、広く高齢者に参加してもらったり地域の中でのささえあいを広げることを目指し、事業の充実を図ることが今後の課題です。	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input checked="" type="radio"/> 拡 充	<input type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮 小	<input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	
地域包括ケアの仕組みの一つとして事業を展開していくために、より多くの高齢者の皆様に参加してもらえるような周知、事業の検討を行います。						

平成26年度 杉並区事務事業評価表(1)

事務事業名		高齢者活動支援センターの維持管理						款	4	項	1	目	6	事業	12	整理番号	225
担当部課名		保健福祉部高齢者施策課						係名	施設担当係			連絡先電話番号	1153	昨年度整理番号	225		
上位施策No・施策名		15 高齢者のいきがい活動の支援						予算事業区分			既定事業						
事務事業の概要	事業開始		昭和	▼	58	年度	<input type="checkbox"/> 実行計画事業目標		施策		計画事業		<input type="checkbox"/> 主要事業(経営計画書掲載事業)				
	対象		○60歳以上の区民及び高齢者活動団体				内部管理		1		根拠法令等		(1) 老人福祉法第4条、第5条の3、第15条、第20条の7 (2) 杉並区立高齢者活動支援センター及びゆうゆう館条例				
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)		○多くの高齢者の施設利用によって、相互の交流を活発にし、社会参加の機会拡充を図る。 ○高齢者の自主的団体活動に対する支援によって、新たな生きがいづくりや仲間づくりを促進し、元気高齢者の増加に寄与する。				活動指標名(式)		(1) 年間利用者数 (2) 団体利用数								
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)		○60歳以上の区民の福祉増進を図るため、各種相談や健康増進、教養の向上及びレクリエーション活動の支援を目的に設置した高齢者活動支援センターの施設維持管理を行う。				成果指標		※(代)=適当な指標がない場合の代替指標								
		成果指標名(1)						算定式・指標の説明等									
		成果指標名(2)						算定式・指標の説明等									
区分		単位	23年度					24年度		25年度		26年度	計画(目標値)に対する25年度の達成率(%)				
			実績					計画	実績	計画(目標値)	実績	計画					
指標	活動指標(1)		1	人	19,329	101,392											
	活動指標(2)		2	回			1,608	2,000	2,195	2,200	109.8						
	成果指標(1)		3														
	成果指標(2)		4														
総事業費・コスト把握	事業費		5	千円	21,617	69,149	69,094	69,406	69,405	71,382	25年度予算執行率(%)	100.0					
	(内) 投資的経費等		6	千円	0	0	0	0	0	0	特記事項						
	(内) 委託費		7	千円	18,333	68,116	68,062	69,049	69,048	71,227							
	職員数	常勤職員数		8	人	0.30	0.30	0.31	0.31	0.36	0.41	活動指標(1)は、平成24年度の受付変更に伴い、数値の統計がとれなくなったため、活動指標(2)に団体利用数を記載した。					
		再任用職員数		9	人	0.10	0.20	0.20	0.00	0.00	0.00						
		非常勤職員数		10	人		0.20	0.00	0.00	0.00	0.00						
	人件費	(内) 常勤職員分		11	千円	2,670	2,610	2,697	2,675	3,107	3,538						
		(内) 再任用職員分		12	千円	308	786	786	0	0	0						
		(内) 非常勤職員分		13	千円		550	0	0	0	0						
	総事業費(5+11+12+13)		14	千円	24,595	73,095	72,577	72,081	72,512	74,920							
	単位あたりコスト((14-6)÷1)		15	円	1,272	721											
	財源	受益者負担分		16	千円	0	0	0	0	0	0						
		国からの補助金等		17	千円	0	0	0	0	0	0						
都からの補助金等		18	千円	0	0	0	0	0	0								
その他の補助金等		19	千円	0	0	0	0	0	0								
特定財源計(16+17+18+19)		20	千円	0	0	0	0	0	0								
差引:一般財源(14-20)		21	千円	24,595	73,095	72,577	72,081	72,512	74,920								
受益者負担比率(16÷14)		22	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0								

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 225

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		運営管理(指定管理者)	12	月	69,016
		施設保守管理委託	12	月	388
		その他()			1
(2)事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	平成24年5月のリニューアルオープン時から建物全体の管理を指定管理者による運営に移行しました。高齢者が利用しやすい施設となるよう維持管理を実施しています。				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	
	今後の予測	
評価と課題	指定管理者による管理に変更になってから2年が経過しました。区と指定管理者との役割分担も行われており、大きな問題もなく運営できています。今後はさらに指定管理者と連携し、高齢者が安全に活動できるよう運営を行う必要があります。	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡充	<input type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 226

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		光熱水費	32	館	31,202
		施設保守管理委託	32	館	17,371
		消耗品購入、修繕、家屋等修繕	32	館	10,856
		物品・機器リース	32	館	3,231
		その他(通信運搬費、備品購入費、負担金ほか)			5,206
(2)事業実績 (協働、行革の取組があれば記入)	ゆうゆう館の利用者が、安全かつ快適に施設の利用ができるよう、施設の修繕、施設保守管理委託などの維持管理を行うとともに、備品・消耗品などを購入しました。				

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	
	今後の予測	
評価と課題	ゆうゆう館の施設・設備の維持管理を行うことで、安全かつ快適な施設の利用について貢献できました。築40年以上のゆうゆう館が半数を占め、老朽化に伴い必要な修繕が増えてくるため、今後も優先して行うべき、建物並びに設備の小修繕を精査しながら、安全で利用しやすい環境を維持することが課題です。	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡充	<input type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	

平成26年度 杉並区事務事業評価表(1)

事務事業名		(暫定) ゆうゆう下高井戸館の整備					款	4	項	1	目	7	事業	26	整理番号	235
担当部課名		保健福祉部高齢者施策課			係名	施設担当		連絡先電話番号		1153		昨年度整理番号				
上位施策No・施策名		15 高齢者のいきがい活動の支援					予算事業区分		投資事業		新規事業					
事務事業の概要	事業開始		平成	▼	25	年度	<input type="checkbox"/> 実行計画事業目標		施策		計画事業		<input type="checkbox"/> 主要事業(経営計画書掲載事業)			
	対象		○60歳以上の区民、高齢者団体、協働事業参加者			内部管理		施設維持管理		1	根拠法令等		(1) 杉並区立高齢者活動支援センター及びゆうゆう館条例 (2) 老人福祉法			
	事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)		○老朽化したゆうゆう下高井戸館の仮移転先として、高井戸第三小学校の敷地内に暫定施設を建設し、利用者が引き続き、快適に利用できる施設とする。									活動指標名(式)				
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)		○平成25年度に基本設計・実施設計を行う。 ○平成25～26年6月までに建設工事を行う。 ○設計から完成まで、地域住民及び利用者との意見交換に努める。									成果指標 ※(代)=適当な指標がない場合の代替指標				
		成果指標名(1)														
		算定式・指標の説明等														
		成果指標名(2)														
		算定式・指標の説明等														
区分		単位	23年度		24年度		25年度		26年度		計画(目標値)に対する25年度の達成率(%)					
			実績	計画	実績	計画(目標値)	実績	計画								
指標	活動指標(1)		1													
	活動指標(2)		2													
	成果指標(1)		3													
	成果指標(2)		4													
総事業費・コスト把握	事業費		5	千円				22,974	17,500	30,013	25年度予算執行率(%) 76.2					
	(内) 投資的経費等		6	千円				0	0	870	特記事項 ※予算執行率は、当初予定の建築面積から規模縮小となったために5,474,000円の残が発生したことによる					
	(内) 委託費		7	千円				22,974	17,500	28,121						
	職員数	常勤職員数	8	人				0.00	0.13	0.23						
		再任用職員数	9	人				0.00	0.00	0.00						
		非常勤職員数	10	人				0.00	0.00	0.00						
	人件費	(内) 常勤職員分	11	千円	0	0	0	0	1,122	1,985						
		(内) 再任用職員分	12	千円				0	0	0						
		(内) 非常勤職員分	13	千円				0	0	0						
	総事業費(5+11+12+13)		14	千円	0	0	0	22,974	18,622	31,998						
	単位あたりコスト((14-6)÷1)		15	円												
財源	受益者負担分		16	千円				0	0	0						
	国からの補助金等		17	千円				0	0	0						
	都からの補助金等		18	千円				0	0	0						
	その他の補助金等		19	千円				0	0	0						
	特定財源計(16+17+18+19)		20	千円	0	0	0	0	0	0						
	差引:一般財源(14-20)		21	千円	0	0	0	22,974	18,622	31,998						
受益者負担比率(16÷14)		22	%				0.0	0.0	0.0							

平成26年度 杉並区事務事業評価表(2)

整理番号 235

25年度の事業実施状況	(1)主な取組	内 容	規模	単位	事業費(千円)
		工事請負費			17,500
		その他()			0

(2)事業実績
(協働、行革の取組があれば記入)
高井戸第三小学校の敷地内に暫定施設を建設するために、学校、PTA、町会関係者など地域の方々と意見交換を行い、学校敷地内の建設場所が決まった。その後も地域へ説明会を開催し、また、直接、近隣の住民を訪問し、説明を行った。
平成25年度に設計・工事着工した。

事業環境の変化	事業開始当初から現在までの変化	
	事業に対する意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	
	今後の予測	
評価と課題	平成25年10月に着工し、平成26年6月末に完成予定。7月末に移転する予定だが、利用者や地域への説明を行うなどの必要がある。	

改善・見直しの方向(中長期)	今後の方向性(見直しの視点)	I 事業コストの方向性	<input type="radio"/> 拡充	<input type="radio"/> 現状維持	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> その他
		II 事業の方向性	<input type="radio"/> 手段・方法の見直し	<input type="radio"/> 実施主体の見直し	<input type="radio"/> 対象の見直し	